

**放送日** 平成28年8月1日（月）

**担当者** 消防本部救急指令課長 小室 秀治

おはようございます。救急指令課長の小室です。

本日は救急指令課について簡単にお話をさせていただきます。救急指令課は名前のとおり「救急」と「指令」に関する業務を担当しています

指令業務につきましては、主に119番通報を受報してその通報内容から「どこで、誰が、どういう状況にあるのか」を聴きだして、必要な隊へ出動指令を行います。また、関係機関への通報や連絡、情報の提供を行い、その後の災害活動が迅速に行えるようサポートしています。昨年1年間では約4,000件の119番通報を受報しましたが、近年は携帯電話等の普及に伴い、北広島市以外の地域からの通報も増加傾向にあります。

救急業務につきましては、当然ながら救急出動がメインとなります。昨年の救急出動は2,022件、前年と比較して148件減少しています。そのほかに、救命講習会の実施など「応急手当普及啓発事業」の業務も担当しています。

現在、救急隊員の中で12名の救急救命士が活動していますが、救急救命士は通常業務の他に生涯教育として札幌医大などで年間約64時間の実習をしなければならないこともあり、人員確保にも苦慮しているところです。

救急指令課は119番の受報や救急出動さらに救命講習会など、消防の中でも特に市民と接する機会が多いことから、今年度の目標に「接遇の徹底」を掲げて業務に取り組んでいます。

指令員や救急隊員にとっては、当たり前の事でも、119番通報をしてきた市民や傷病者は何らかの助けを必要としています。自分たちに何が求められ、どうして欲しいのかをしっかりと見極めて相手に不快感を与えないよう活動することを心がけています。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいただく大志を結集し、本日も1日、元気に頑張りましょう。

**放送日** 平成28年8月2日（火）  
**担当者** 消防署大曲出張所長 大沼 松太郎

おはようございます。消防署大曲出張所長の大沼です。

消防署大曲出張所は、平成26年8月に新築移転し、大曲2番地8の国道36号に面した場所で業務を開始しております。旧出張所は今では更地となり、当時の面影は無く、昭和55年の開設から移転までの34年間で私は3回の異動があり、通算10年間勤務いたしました。

狭い出張所ではありましたが思い出は多く、私の中ではまた一つの昭和が消えたようで寂しい思いがあります。

現在の出張所は、19名の所員が隔日勤務体制により1・2担当に分かれて業務をしております。主な業務は消防業務・査察業務・救急業務で、近年増加傾向にある各種災害に対して、ベテラン職員を配置して対応しております。

出張所の管轄区域は大曲・輪厚地区と広範囲であり、特に大曲地区は商業化開発が進み、大型複合商業施設が建ち並んで、一昔前の大曲地区からは想像も出来ないような発展を遂げました。また、輪厚工業団地には優良企業が次々と進出しており、昼間の人口が急増していることによる救急事故等の消防対応事案が増加傾向にあるのが特徴と言えます。

出張所の敷地や建物の面積については、申し分のない広さがありますが、広いが為に建物の維持管理に苦慮することが多々あります。また、消防団第3分団の詰所が併設されており、日頃から訓練等で団員との連携を深めております。さらに、敷地内には充実した訓練施設があり、7月の全道救助指導会では、この施設で猛特訓した若手隊員チームが見事2位に入賞して、8月に愛媛で開催される全国大会の出場を決めることが出来ました。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいただく大志を結集し、本日も1日、元気に頑張りましょう。

**放送日** 平成28年8月3日(水)

**担当者** 消防署西の里出張所長 工藤 邦彦

おはようございます。消防署西の里出張所長の工藤です。本日は、私の災害現場の経験談から「言葉の力」についてお話させていただきます。

市制施行の翌年、東京での半年間の研修を終え、救命士の合格を待つ春に男性が自宅の犬走りで倒れている事案に救急出動しました。災害現場は、常に修羅場です。

この事案も同じように家族は、動揺し泣きわめいていました。倒れている男性の心電図は、心室細動で現在なら誰もがAEDで救命可能ですが当時は、医師の指示が無ければ救命士は、除細動が許されていませんでした。また救命士の合格通知が届いていない私には当然、許されない行為でした。病院へ到着するまでの約30分間、心臓マッサージを続けながら動揺した家族へ私から「お父さんは、頑張っ

て生きようとしているから励まして！」と声をかけ、落ち着かせました。後日、ご家族から礼状が届き、この礼状を今でも大切に持っています。礼状の一部紹介させていただきます。

「残念ながら父は、帰らぬ人となってしまいました。懸命な救命処置や家族への励ましの言葉は、心強い思いでした。今までは、他人事のように思っていた救急活動を目の前にし、本当に尊いお仕事だと思わずにいられていませんでした。本当に有難うございます。これからもお体にお気を付け大切な命を救うために頑張ってください。」

「言霊」それは、言葉の力。普段何気なく使っている言葉の表現方法で良くも悪くも相手に受け取られてしまいます。市民への対応も解り易い言葉と汗をかき誠意を持った対応をすれば、例え私のように救命できずに失敗したとしても感謝されるものと思います。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいただく大志を結集し、本日も1日、元気に頑張りましょう。

**放送日** 平成28年8月22日（月）

**担当者** 企画財政部政策推進室企画課 主査 熊田 仁

おはようございます。政策推進室企画課主査の熊田です。今日からは、主査職が朝のスピーチを行ってまいりますので、よろしくお願いいたします。

さて、最近の、地方のまちに関する議論では、「衰退」や「疲弊」といった言葉がよく使われています。

一体「まちが衰退する」「まちが疲弊する」とはどういうことなのでしょう。そして今の北広島市はどうなのでしょう。これには人それぞれ考え方があってと思います。

しかし、例え衰退していようと疲弊していようと、まちは今、ここにいます。明日、何もかも消えて無くなるわけではありません。そしてそこには、今も続く人々の暮らしがあります。

人々の暮らしは、数字やデータだけでは測れません。

まちづくりを進めるうえでは、データによる客観的な分析や評価ももちろん必要ですが、人々の暮らしぶりやまちに対するリアルな思いをどれだけ反映できるかが重要だと思います。

今、「コンパクトシティ」をコンセプトにしたまちづくりがいろいろなまちで取り組まれています。

この言葉の捉え方はさておき、北広島市でも、これから、人口増加の時代とは違う新しい発想でまちづくりを進める必要があり、それはまちの姿を大きく変えるかもしれません。

とはいえ、まちの姿というものは、それぞれの時代に生きた人達の思いや努力が積み重なって、長い時間をかけて形作られたものであり、簡単に切ったり貼ったりできるものではありません。

それでも、一つ一つの取り組みの積み重ねが、やがてより暮らしやすい、新しいまちの姿を形作っていくものと確信しています。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日、元気に頑張りましょう。

**放送日** 平成28年8月23日（火）

**担当者** 企画財政部政策推進室企画課 主査 柴 清文

おはようございます。政策推進室企画課の柴です。

まず初めに、今回の台風の影響により、犠牲となられた方のご冥福をお祈りいたしますとともに、被害にあわれた方々に、心よりお見舞いを申し上げます。

北広島市においても、警戒する状況は続いておりますので、職員の皆様におかれましては、引き続き、今後の情報にご注意いただきたいと思います。

今日は企画課の中で自分が担当している業務について、少しお話しさせていただきます。

今年の3月に「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が策定され、その中の事業の一つとして現在取り組んでいます、北広島団地イメージアップ事業では、先日、若手職員の協力をいただきながら、団地の魅力を発信する動画の撮影が終了したところであります。ご協力ありがとうございました。この動画につきましては、9月中旬の公開に向けて、現在、準備を進めているところです。

このあとは、団地に実際に足を運んでいただくモニターツアーの開催や、一般の方からのコンテスト形式による動画の募集など、北広島団地地区の活性化、魅力発信に向けた取り組みを進めていきます。

このほか来月には、市外からの参加者も多く、早くも第5回目となります、きたひろコンカツ事業もレクリエーションの森で開催いたします。

また、定住人口増加に向けた取り組みとして、初めて取得する住宅の、購入費用の一部を助成する、ファーストマイホーム支援に関することや、1か月ほど実際に北広島市に住んでいただき、その魅力を存分に味わっていただく、おためし移住に関する業務も行っています。

このほか、いくつかの事業を進めておりますが、まちづくりに関する事業におきましては、企画課のみならず、各部署と連携をとりながら、より良い北広島、そして魅力あるまちづくりを進めていきたいと考えております。

最後になりますが、現在、第5次総合計画に基づく推進計画の策定につきまして、各部局で事業の精査を行っていただいているところでありますが、事業効果や効率性を図りながら、今後に向けた事業計画を、よろしく願いいたします。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日、元気に頑張りましょう。

**放送日** 平成28年8月24日（水）

**担当者** 企画財政部政策推進室企画課 主査 高嶋 真一

おはようございます。政策推進室企画課の高嶋です。

先日、日本のメダルラッシュに沸いたオリンピックが閉幕しました。メダルを獲得した選手に注目が集りますが、メダルに届かなかった選手も含め、選手の数だけドラマがあります。オリンピックという晴れの舞台は一瞬で終わってしまいますが、それぞれの選手の裏には4年間という努力の日々が隠されています。そんなドラマがあるから多くの人に感動を与えることができるのだと思います。

近年、少子高齢化の進行や人口減少社会の到来、そして地方分権の進展などにより市町村の担う役割は大きくなっています。更にはベテラン職員の大量退職期なども重なり、我々職員に求められる役割も大きくなっています。企画課においても、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」による新規事業への着手など、数多くの事業に取り組んでおり、市町村を取り巻く環境の変化を肌で実感しているところです。

我々職員もオリンピックの選手のようにはいきませんが、行政のプロとして、北広島市がより良いまちになるよう努力をしていかなければなりません。そうは言っても、オリンピック選手でさえ、高いモチベーションを4年間保ち続けることは困難であり、私達職員も上手にリフレッシュすることは大切なことだと思います。私自身も休暇になると仕事のことを忘れ全力で遊んでいます。体は疲れることもあります。気持ちがあっさりします。

最後になりますが、今年市制施行から20年の節目の年です。これからも職員が一致団結し「チーム北広島」として頑張っていきましょう。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日、元気に頑張りましょう。

**放送日** 平成28年8月25日(木)

**担当者** 企画財政部政策推進室企画課 主査 山田 真耶

おはようございます。政策推進室企画課の山田です。

もう10年くらい前の話になりますが、私の当時の上司が、日本の高度経済成長期を描いた映画「ALWAYS 三丁目の夕日」を観て、「あの頃の日本は元気があった。みんなが夢を持っていた。」と、昭和30年代の「古き良き時代」を懐かしんで、思い出をしみじみ話していました。

1980年生まれの私の世代は、1980年後半のバブル景気さえも実感がなく、正直あまりピンとこなかったのも、あまり気持ちが入っていない相槌を打って応えていたような気がします。

さて、私が担当している業務は「地方創生」です。

日本全国で、人口減少問題に対応するため、様々な対策を打ち立てており、北広島市においても、本年3月に「北広島市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定し、人口減少に歯止めをかけようとして取り組んでいます。

人口減少が進行しても「ゆとりがあった古き良き時代に戻るだけ」という意見もあるそうですが、現在直面している人口減少社会は、かつての「古き良き時代」とは異なり、著しく高齢化した社会です。

国の機関（国立社会保障・人口問題研究所）が発表した人口推計によると、2050年の総人口は1億人を切り、高齢化率（65歳以上人口の割合）は39%となり、実に5人に2人が高齢者ということになります。

私は2050年にちょうど70歳です。5人に2人の高齢者のまさにその1人になるわけです。人口減少や高齢化で変わりゆく社会をわが身に体験することになります。

2014年生まれの私の娘は2050年に、今の私と同じ36歳になります。彼女の世代が成長した社会はどうなっているのでしょうか。

2050年が、のちに将来人々から「古き良き時代」として懐かしく思い出されるような社会となるよう、今できる、まちづくりを真剣に考え、取り組んでいきたいと思います。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日、元気に頑張りましょう。

**放送日** 平成28年8月26日（金）

**担当者** 企画財政部政策推進室政策広報課 主査 松下 慎司

おはようございます。政策広報課広報担当の松下です。

まずは、広報担当の業務内容について、ご紹介いたします。メインの業務となるのは、広報紙の発行です。市民協働ということで、NPO法人に一部編集業務を委託し、一緒に作成しています。

そのほかに、市勢要覧の作成及び配布、コミュニティFMを通じての情報発信、各種イベントなどの写真撮影などを行っています。

さて、話は変わりますが、皆さん広報という言葉からはどんなことを連想されるでしょうか。広報紙を思い浮かべた方が多いのではないのでしょうか。

広報とは、施策や業務内容などを広く一般の方に知らせることであり、その手段は幅広く、報道機関への情報提供やPR動画、ポスター、パンフレット、講演会、討論会などさまざまです。

私たちの仕事は、あえてPRしなければ一般市民は普段あまり関係がなく、興味を抱くきっかけがつかめません。問題や事件が起こらなければ、縁の下の力持ちの仕事は理解されずに終わってしまいます。

市職員一人一人が広報マンであるという自覚を持ち、自分の所管事務について自らがPRしていくことが必要です。

毎年同じことを繰り返すアライバイ広報から脱却し、仕事を面白く広報セールスすることにより、知らせる広報から人を動かす広報へとつなげていきましょう。

最後になりますが、広報原稿の締め切りは発行日の1カ月前となっております。くれぐれも遅れて提出することの無いよう、ご協力をお願いいたします。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいadak大志を結集し、本日も1日、元気に頑張りましょう。



**放送日** 平成28年8月29日（月）

**担当者** 企画財政部政策推進室政策広報課 主査 山本 真伸

おはようございます。政策広報課、シティセールス、ホームページ、統計担当の山本です。

まずは担当業務についてご紹介します。シティセールスを一言で説明しますと、北広島市の存在と価値を広く知らせる、というものになります。北広島市は住みよさランキングで3年連続北海道ナンバー1となっておりますので、その価値を楽しみながら知ってもらえるよう取り組んでおります。

このほかに、この十数年で重要な情報発信媒体となりました市ホームページに関連する業務、NPOとの協働事業であるきたひろTVの業務、そして、国勢調査をはじめとした統計調査に関連する業務を担当しています。

今回は私が仕事で心がけていることとお話ししたいと思います。

私が今担当している業務では、ホームページや動画、うちわなど、何かしらの媒体を使って情報を発信するというものが大半を占めています。

情報発信はコミュニケーションです。一方通行ではありません。相手に気づいてもらい、理解してもらい、行動してもらって成功と言えます。

ともすれば、ホームページに情報を載せただけでやり遂げた気になってしまいがちですが、本当にそれが気づかれやすいか、理解しやすいか、こちらの期待する反応が得られそうか、何度も確認を繰り返すことを心がけています。

この確認の中で気づいたのは、内容と同じくらい、見た目、つまりデザインの工夫が重要ということです。

誤解されがちですが、デザインはセンスではなく、セオリーの積み重ねです。より適切な言葉、より適切なレイアウト、より適切な色を選ぶことで、良いデザインなり、最終的にコミュニケーションの成功に結び付きます。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいただく大志を結集し、本日も1日、元気に頑張りましょう。

**放送日** 平成28年8月30日（火）  
**担当者** 企画財政部財政課 主査 佐藤 亮

おはようございます。企画財政部財政課主査の佐藤 亮です。

財政課は、市の予算の編成や執行管理などの業務を行っています。平成28年度の予算編成では、庁舎建設などの大型事業もあったため、一般会計の総予算は、過去最大の251億円になりました。この予算を執行するために必要な財源は、市の自主財源である市税と、使途を定めず国から交付される地方交付税の2つで全体の約半分を賄っており、財政課では、この地方交付税額の算定作業も行っていきます。

地方交付税は、自治体が必要とする標準的な財政需要に応じて交付されます。財政需要の算定は、道路の延長や学校の数などの基礎的な数値をもとに行いますが、なにより最も影響があるのは、人口です。平成28年度は、22年度の国勢調査人口を用いて算定した27年度と比べ、約1,300人の人口が減少し、その結果、交付税は、1億3千万円もの減額となりました。

人口減少の影響は幅広い分野に及びますが、こんなところにも影響が出ているのです。

いま、本市は、まち・ひと・しごと創生総合戦略に位置づけた様々な施策を通して、人口減少問題に立ち向かっています。この地方創生の取り組みをしっかりと推し進めていくことはもちろんですが、これまで実施してきた事業についても、改めて足元を見つめなおし、職員一人一人が一所懸命業務に取り組むことが、市民の満足度を高め、ひいては、この街の魅力アップに寄与していくと、私は思います。北広島市職員の日々の業務は、人口減少対策へとつながっています。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいだく大志を結集し、本日も1日、元気に頑張りましょう。

**放送日** 平成28年8月31日(水)

**担当者** 企画財政部都市計画課 主査 渡辺 聡

おはようございます。都市計画課基本計画担当の渡辺です。

都市計画課で私が担当している市街地整備計画事業と道路計画事業について、紹介させていただきます。

市街地整備計画事業では、まちづくりの指針となる都市計画マスタープラン、その上位計画である総合計画に基づき『北広島にふさわしいコンパクトシティ』をめざし取組みを進めており、昨年12月には『市内の幹線道路沿道における利便施設の誘導』、北広島駅周辺などの『拠点地区の高度利用の促進』を図るため、土地利用の基本となる用途地域の見直しを行いました。

道路計画事業では、安全性、利便性の高い都市間道路や市内幹線道路のネットワーク形成を図るため、都市計画道路を適切に定め、適宜都市計画道路網の見直しを進めております。最近のホットな話題として、平成21年6月29日から16時間運用で利用されている道央自動車道の輪厚スマートICが9月9日午前6時より24時間運用となります。早朝、深夜など時間を気にすることなく利用ができ、ますます便利になります。この間、関係機関など、多くの皆さんにご協力をいただきました。

この24時間運用が、きっかけとなり、これまで以上に、観光やレジャー、地域の活性化が図られ、周辺地域をはじめ北広島のまちづくりの促進に繋がればと思います。

今後のまちづくりにおいても、市民や事業者、行政がおのこの役割を果たしながら、それぞれの地域の特性を生かしたまちづくりのため、施策や計画づくりなどを通じ、北広島の将来の姿について、同じ将来像を共有し取組んでいくことが、大切であると考えます。

気持ちの良い挨拶は、職場に笑顔をもたらします。

親切的な市民対応は、市民に笑顔をもたらします。

職員皆さんが心にいただく大志を結集し、本日も1日、元気に頑張りましょう。